

かお・人・interview

2024年10月10日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局
八代河川国道事務所 所長

飯島直己氏

IIJIMA Naoki

八代河川国道事務所は、熊本県南部地域の河川や道路に関して整備等を行い、地域の活性化に貢献している。河川事業としては、令和2年7月豪雨による球磨川災害復旧・復興事業を中心に、河道掘削などを実地。道路事業では、南九州西回り自動車道・熊本天草幹線道路の整備を推進し、交通インフラの向上を図っている。

また、自然環境との共生を目指し、河川のイベントとの連携や「かわまちづくり」も積極的に支援。地域の安全確保に向けた取り組みや課題について飯島所長に話を伺う。

Q 所長就任にあたっての抱負

球磨川流域では、令和2年の7月豪雨から4年が経過し、復旧・復興が進んでおります。また、道路整備においては、時間短縮効果や災害時の代替機能など「経済の道」「命の道」としての重要性が再認識され、地域の熱意を強く感じております。

今後は、一日も早い球磨川流域の復興や道路整備を進め地元の期待に応えられるよう、地域や関係自治体、関係機関等と連携し、スピード感を持って事業を進めていきたいと考えています。これらの事業を円滑に進めるためには、風通しの良い職場環境が重要です。困難な状況に直面しても、職員同士が意見を交換し、創意工夫を重ねることで、信頼感や意欲が高まり、それが事業の質の向上や効率化につながります。地元の皆さまの期待に応えられるよう、一丸となって取り組んでまいります。



▲熊本天草幹線道路 宇土道路 城塚IC(仮称)

Q九州や熊本との関り

九州での勤務は初めてですが、熊本県については少しだけ縁があります。県北では、半導体企業の進出により、全国的にも注目されていますが、以前、これらの半導体関連企業に関する規制改革に関わっていたことがあり、親近感を感じております。地域の発展に貢献できることを楽しみにしています。

Q事務所の紹介(事業内容、組織、特徴)

八代河川国道事務所は、令和2年7月豪雨で被災した球磨川流域



において進めている「球磨川水系緊急治水対策プロジェクト」による事業の推進、南九州西回り自動車道、地域高規格道路「熊本天草幹線道路」の一部を構成する熊本宇土道路や宇土道路、宇土三角道路の整備を行っており、熊本県の中部から南部、鹿児島県の北部に至る幅広い区間で事業を行っています。事務所組織は、事務所幹部と10課、2出張所で構成し、職員数は約90名。2つの出張所(八代、人吉)は、球磨川の維持・管理や工事の監督等を行っています。

Q今年度の事業概要

河川事業では、令和2年7月豪雨からの復旧復興を進めている「球磨川水系緊急治水対策プロジェクト」に位置付けた対策を、引き続き、推進していきます。

河道掘削：令和4年1月末までに、令和2年7月豪雨後に堆積した土砂(推定：約125万 m^3)の掘削が完了しており、さらに、令和6年4月末時点で、プロジェクトの24%にあたる約117万 m^3 の掘削が完了しました。

宅地かさ上げ・輪中堤事業・引堤事業：昨年、八代市、芦北町、球磨村の3自治体で着工式を実施しました。令和6年4月末時点で、全体31カ所のうち、17カ所で宅地かさ上げ工事を実施しています。

遊水地事業：昨年8月に相良村柳瀬地区の遊水地事業に着工し、現在、工事を進めています。昨年度は、川辺川と遊水地の間の堤防である囲繞堤(いじょうてい)約500mの整備および遊水地内の掘削を実施しました。本年度は、遊水地の周りの堤防である周囲堤約200mの整備と遊水地内の掘削を引き続き進めていきます。

道路事業：南九州西回り自動車道の整備を引き続き進めており、これまでに八代JCTから水俣ICまでが開通しています。開通後の効果としては、まず、並行する国道3号について、交通量が約8割～9割減少し、大型車の混入率も減少傾向にあるため、走行性が改善しております。また、救急医療の搬送時間についても、開通

前後で、出水市から熊本市まで32分間の短縮が図られており、患者への負担軽減につながっています。さらに、沿線市町村の死傷事故件数が約7割減少したことや、エコパーク水俣などの観光拠点において、観光客が増加するなど地域の活性化が図られています。今年度も、引き続き、早期供用に向け事業を推進してまいります。



▲芦北出道路 袋IC(仮称)付近

一方、熊本天草幹線道路については、昭和56年度の県総合計画で「90分交通圏」が最初に明記され、令和3年度には熊本県と熊本市が策定した熊本県新広域道路交通計画においても、熊本都市圏および熊本空港と県内主要都市を90分で結ぶ幹線道路ネットワークの構築「90分構想」が掲げられました。当事務所では、構想実現に向け、熊本宇土道路、宇土道路、宇土三角道路の事業を進めておりますが、今年度は、宇土道路において、網津地区等の改良工事を推進し、割井川橋等の橋梁工事や糖塚山トンネル(仮称)工事を推進していくこととしています。

Q 地域との連携・協働について

八代で活動されている河川協力団体の「次世代のためにがんばろ会」は、地域の環境を守るためのゴミ拾いや教育活動等を主に行っていますが、本年から当事務所と連携して、球磨川の派川である前川の河口部で生き物見学会を行っています。球磨川の河道掘削で出た



▲ヨシ原再生地で休息するクロツラヘラサギ

土砂を干潟に盛土し、さまざまな標高の場所を作ることで、ヨシ原等の自然再生を図ることを目的に整備した場所です。毎月、高

校生を主体に生き物調査が行われおり、経年的なデータが得られることを期待しています。

また、「球磨川アドベンチャーズ」と連携して小学生以上を対象とした水難事故防止体験学習やカヌー体験、河川管理者向けの指導者講習を開催しています。活動の場は、かわまちづくりで整備した遥拝八の字広場です。くま川祭りや各種河川敷のイベントと連携し、川辺の賑わいにも貢献しています。球磨川本川の錦町の河川敷にツクシイバラの自生地があり、そこで活動されている「球磨川ツクシイバラの会」は、例年5月下旬に開花する時期に河川敷で来場者に対して、おもてなしのイベントを行っています。催しに向けた草刈りや準備等については、当事務所職員も休日と一緒に作業を行い、協力しながら地域の盛り上がりを支援しています。



▲人吉かわまちづくり手交式

国土交通省は平成21年度より、地域の「資源」や「知恵」を活かし、市町村や民間事業者、地域住民と河川管理者が連携して、「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間形成を目指す「かわまちづくり」を推進し、この取り組みを促進するための支援も行っています。現在、「かわまちづくり」として活動しているのは、人吉市と八代市の新萩原橋周辺地区、坂本地区です。人吉市の「かわまちづくり」は、令和2年3月に計画が登録されていま

すが、令和2年7月豪雨の被災を受け、人吉市の復興まちづくりの計画と合わせて内容の見直しを行っていました。昨年度末までに計画変更の内容が完成し、本年4月25日には人吉地区かわまちづくり協議会と実行委員会から、人吉市の松岡市長へ変更の計画書が手交されました。現在は、人吉市から国土交通省に計画変更の申請手続きを行っている状況です。

今後も地域住民や各団体のみならず、関係自治体等と当事務所が連携し、より良い地域づくりのために積極的に関わりを持って行きたいと考えています。

Q 地域建設業への要望・メッセージ

地域の建設業界については、我々が事業を進めるための大事なパートナーであり、いざという時には、「地域の守り手」として必要不可欠な存在であると思っています。特に、熊本県においては、平成28年の熊本地震や令和2年の豪雨災害といった大きな災害を経験しておりますが、地域の建設業界の方々が、発災直後から復旧に向けて昼夜を問わず迅速に対応していただいたことに対して、改めて深く感謝いたします。

今年1月には能登半島地震が発生するなど、近年は大規模な災害が全国各地で頻発していることを踏まえると、今後、ますます地域の建設業の存在が重要になります。その一方で、高齢化や若年入職者の減少による担い手不足、時間外労働の上限規制といった働き方改革に係る課題が山積しています。地域の建設業が持続可能な環境をどう構築すべきか、業界の魅力をどのように発信していくのか考えていきたいと思っています。

Q 趣味や健康法について

趣味と健康を兼ねて、温泉やサウナで心身ともにリラックスすることです。温かいお湯やサウナの熱で身体の芯まで温まり、じっくりと汗をかくと解放感に包まれます。うれしいことに、九州には熊本県内をはじめ、特色のある温泉地が多く存在します。地域を知るためにも、休日を利用してさまざまな場所を訪ねてみたいと考えています。

プロフィール



東京都出身、昭和59年生まれ、40歳。
 H22年 4月 国土交通省採用
 H28年 4月 北海道開発局 札幌開発建設部
 河川計画課 調査官
 H31年 4月 北海道開発局 室蘭開発建設部 治水課長
 R3年 3月 内閣府 地方創生推進事務局 参事官
 (国家戦略特別区域担当) 付参事官 補佐
 R5年 4月 水管理・国土保全局 海岸室 企画専門官
 R6年 4月 現職